

新しい本が入りました！ ※別紙一覧表をご覧ください。

**ビブリオバトル 特集展示**  
1 学年で実施予定の“ビブリオバトル”。紹介したい本が見つからない、どんな本がいいかなと思ったら、ぜひ図書館を覗いてみて下さい。様々なブックガイドが、あなたの本探しのヒントになるかも。



今年のチャンプ本はどの本になるのか。選考結果はいかに？

令和4年も残すところ一か月となりました。みなさんにとってどのような一年でしたか。**12月5日(月)から冬季の冊数無制限貸出が始まります。**冬休みに新たなジャンルの本に挑戦してみてください。新しい発見があるかもしれませんよ。

○12月の新着図書を展示  
冬休みのおススメ本もありますよ。

**★特集展示 『クリスマス特集』**

チャールズ・ディケンズ『A Christmas Carol』、O.ヘンリー『賢者の贈り物』、『パディントンのクリスマス』…  
改めてゆっくり名作に触れてみませんか。クリスマスの起源や小説、洋書、絵本、レシビ、手芸、楽譜など沢山集めました。

## ≪ 話題の図書の中から ≫

### ▲小論文対策

『パンデミック監視社会』  
デビット・ライヴン【著】  
松本 剛史【訳】  
(筑摩書房)

新型コロナウイルスによるパンデミックは、監視技術が世界的に広まる契機になったとも言われている。加速化する監視資本主義とデータ主義が、社会をどう変えたのか。世界的権威が語りかける話題作。

### ▲小論文対策

『自分ごとの政治学』  
中島 岳志  
(NHK 出版)

学ぼうにも、どこから手をつけるべきかも分からないことが多い「政治」について、歴史・概念・仕組みから解き明かす一冊。「右派と左派」「民主主義」から「税金と政策」まで広く教えてくれる。



『21世紀の民主主義』  
成田 悠輔  
(SBクリエイティブ)

「民主主義が意識を失っている間に手綱を失った資本主義は加速している。私たちはどこを目指せばいいのか？人の能力や運や資源はおぞましく不平等なこと。」気鋭の若手学者が問いかける政治・選挙に関わる注目作。

小論文対策、多数入荷しました！

## 図書館からのお知らせ

### 1. 雑誌の展示

- 1年以上前の古い雑誌を展示しますので、ご自由にお持ちください。
- ◆展示期間：12月5日(月)～12月23日(金)
- ◆対象雑誌：2021年12月までの除籍雑誌
- ※一人2点まで 先着順ですでお早めに！

### 2. 図書の貸出冊数無制限

- ◆貸出冊数無制限期間：12月5日(月)～12月23日(金)
- ◆返却期限：1月11日(水) 厳守
- ◆冬季休業中の閉館日：12月29日(木)～1月3日(火)

12月・1月のカレンダー   グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
				12/1	2	3 土曜授業 午後閉館
4	5	6 期末考査	7 期末考査	8 期末考査	9 期末考査	10
	雑誌の展示 無制限貸出(始)					
11	12 雑誌の展示	13	14	15	16	17
18	19 雑誌の展示	20	21	22	23	24
					終業式 避難訓練	
25	26 冬季休業日(始)	27	28	29	30	31
1/1 元旦	2	3	4	5	6	7 冬季休業日(終)



『ネコはここまで考えている』  
高木 佐保  
(慶應義塾大学出版会)

人類の「きまぐれな友」ネコ。この自由で、愛くるしい生き物は、ヒトとの共生生活で、複雑で柔軟な思考能力を進化させた。海外でも話題の発見の数々を、ネコ好きのネコ心理学者がひもとく。



## 冬休みのおススメ本



『図説クリスマス全史』  
ムーア、タラ【著】  
黒木章人【訳】  
(原書房)

クリスマスの起源や慣習、世界各地で独自に発展した祝い方で、クリスマスの多面的な歴史を豊富な図版(85点)とともに解説。古代ローマに遡る起源から、慣習、世界各地で独自に発展した祝い方で、クリスマス2000年の歴史を、宗教、政治、文化の視点から解き明かす一冊。

『運動脳 新版・一流の頭脳』  
ハンセン、アンデシュ【著】  
御松由美子【訳】  
(サンマーク出版)

脳は身体を移動させるためにできていた。「歩く・走る」で学力、集中力、記憶力、意欲、創造性がアップし、有酸素運動で脳細胞が増え、海馬が大きくなると著者は言う。

『古典とケーキ』  
梶村 啓二  
(平凡社)

夏目漱石『文鳥』といちごジャム、シェイクスピア『マクベス』とショートブレッド等々、古今東西12の古典をそれぞれに最適なお菓子のレシピとともに紹介する読書案内。もの読む人のそばに甘味あり、ぞくぞくする古典の再発見とともに手づくりスイーツのおいしさを味わえる作品。

『おいしいごはんが食べられますように』  
高瀬 隼子  
(講談社)

職場ではそこそこうまくやっている二谷、皆が守りたくなる存在で料理上手な芦川、そして仕事ができがんだり屋の押屋。そんな登場人物を中心にままならない人間関係を、食べものを通して描いた作品。

第167回芥川賞受賞作